



◆ 「しらせ船内郵便局」開局

12日(土)の南緯55°通過に合わせ、公衆電話室内にある「しらせ船内郵便局」で郵便物の受付が始まりました。船内郵便局では、はがきや切手の販売の他、しらせ記念スタンプがあり、自由に押印することができます。もちろん配達も、しらせが日本に入港後となります。今ではメールで、朝夕関係なくリアルタイムで連絡できる時代となりましたが、船から手紙を投函するのも一味違っていいものです。公衆電話も2台備えています。使用料は少し高くなりますが、家族、知人の温もりのある声を聴くのも励みになるでしょう。



◆ 氷山 現る！

13日(日)。ついに、氷山が現れました。11時25分に氷山であることを確認したと艦内放送が流れました。写真の氷山は初視認の氷山ではありませんが、その後、次々と氷山が確認できました。氷山は流氷とは違います。南極大陸上でできた氷床が自重で海に張り出したものを棚氷と呼びますが、氷山はその棚氷が割れ海に流れ出したものです。流氷は海氷面が凍ったもので、その成因、規模ともに全く違うものです。写真の氷山は、大きさは定かではありませんが、数十mの高さはあるでしょう。「氷山の一角」ということわざ通り、見えている氷山はごく一部で、海面下には8~9倍の氷が隠れています。

ところで、南極新聞社主催の「初氷山視認時刻当てクイズ」。何と、観測隊の樋口越冬隊長が見事1位、佐藤隊員が3位に入賞し、夕食後、艦橋で表彰式がありました。ちなみに私の予想は、同じ日の5時50分05秒でした。残念。

ここで一句。「海原にぼつんとひとり棚氷」



テーブル型氷山

◆ JARE57 隊員紹介

直木 和弘 (39) 夏隊 一般研究観測 鹿児島県出身

東海大学情報技術センター

人工衛星による海水の観測が専門。海氷から出るマイクロ波を人工衛星で捉え海氷面積の変動を解析している。マイクロ波の衛星観測は、寒さ・強風など厳しい環境になる南極の海氷を毎日観測できるが、その正確性を確認する必要がある。今回の観測では、実際の南極の海氷や海を衛星と同じセンサーを用いて解析し、衛星データから観測された海氷情報を、より正確に掴みたいと考えている。しらせ接岸後は、定着氷の掘削やEM観測

(磁場を用いて海氷の厚さを測る)もおこなう。また、各機関から委託のArgoフロートや海面漂流ブイの海洋投入なども担っている。南極の氷が見れるのをすごく楽しみにしている。

皆さんには「元気を忘れない」という言葉を頂きました。



波のマイクロ波解析(艦橋にて)

◆ 謎の郵便物

郵便局は昭和基地にも開設されます。8日(火)しらせ船内の一室で昭和基地分室が開設され、切手・はがき等の販売が始まりました。分室長は前号で紹介した直井隊員。当日、直井分室長より郵便物が届きました。カラフルでキュートなシールが貼られ、女性らしき差出人。「えっ、誰?。教え子? 隠れファン? 昔の・・・?」煩惱だらけの私は、しばし動揺。手紙の正体は、昭和基地の消印や記念スタンプを収集しているマニアからのものでした。時間差でもう一通、今度は男性からでした。他の隊員にも多数届いているとのこと。



2015.12.8.

まだ修行が足りないですね。南極大陸を踏みしめて成長します。反省。

2015.12.16.